

英語語法マスター【講義編】

第1講～第23講（動詞・名詞・形容詞・副詞）

目次

1 動詞の語法①

- ・自動詞と他動詞

2 動詞の語法②

- ・不定詞と動名詞

3 動詞の語法③

- ・使役／知覚動詞
- ・that節＋原形V

4 動詞の語法④

- ・SVO to V型

5 動詞の語法⑤

- ・SVC型&doの用法
- ・SVOO型

6 動詞の語法⑥

- ・活用形&「言う」系
- ・意外な意味の自動詞

7 動詞の語法⑦

- ・A of B型&A for B型
- ・A with B型

8 動詞の語法⑧

- ・A from Ving型&V A as B型
- ・V A to B型
- ・「感謝する・合う・似合う」

9 動詞の語法⑨

- ・「貸す」「借りる」系
- ・「疑う・許す」の識別
- ・「思いつく・思い出す」

10 動詞の語法⑩

- ・「着る・傷つく」
- ・「かく・勝つ」
- ・「望む・願う」の識別

11 名詞の語法①

- ・不可算名詞
- ・常に複数形の表現

12 名詞の語法②

- ・常に複数の形
- ・単数でも複数扱い
- ・「客」を表す名詞

13 名詞の語法③

- ・「お金」「予約・約束」
- ・「仕事」「go to～」

14 名詞の語法④

- ・意味・冠詞に要注意

15 形容詞の語法①

- ・数・量を表す形容詞
- ・多少の表現&目的語

16 形容詞の語法②

- ・分詞形容詞
- ・「人S」不可

17 形容詞の語法③

- ・意味が混同しやすい系
- ・It is 形 of 人 to V
- ・「できる・できない」系

18 形容詞の語法④

- ・叙述用法&限定用法
- ・名詞のコロケーション

19 形容詞の語法⑤

- ・仮主語構文
- ・「人S」の形容詞

20 副詞の語法①

- ・肯定・否定・疑問文別の副詞
- ・時制に要注意な副詞

21 副詞の語法②

- ・語順に要注意な副詞
- ・準否定&almost

22 副詞の語法③

- ・lyの有無&otherwise
- ・muchの用法&first系

23 副詞の語法④

- ・文と文をつなぐ副詞
- ・文全体を修飾する副詞



<英語語法マスター①> 動詞の語法①

① 他動詞と間違えやすい自動詞

- ・ 自動詞: 後ろの名詞[目的語]を置くと、前置詞が()動詞
- (例) X apologize me → O apologize to me 「私に謝る」

前置詞とセットで!

<頻出の他動詞と間違えやすい自動詞>

① 「Aについて話す」	→ () = ()
② 「Aに着く」	→ () / () = ()
③ 「Aについて言及する」	→ () = ()
④ 「A(場所/人)を訪れる」	→ () = ()
⑤ 「Aに住む」	→ () = ()
⑥ 「Aに反対する」	→ () = ()
⑦ 「Aの中に入る」	→ () = ()
⑧ 「Aに答える」	→ () = ()
⑨ 「Aを出発する」	→ () = ()
⑩ 「AにBのことで謝る」	→ () ()
⑪ 「AにBのことで不満を言う」	→ () ()
⑫ 「AとBについて口論する」	→ () ()
⑬ 「Aを卒業する」	→ () ()
⑭ 「Aなしですます」	→ () = () ()
⑮ 「Aと競争する」	→ () ()
⑯ 「Aと口論する」	→ () ()
⑰ 「AとBにおいて異なる」	→ () ()
⑱ 「Aを処理する」	→ () ()
⑲ 「Aを認める」	→ () ()
⑳ 「Aに同意する」	→ () ()

※①～⑨は他動詞の言い換えもおさえる!

ポイント① complain のほかに, agree (認める)などは、前置詞を省いて()を続けることができる。reply は「～と答える」の意では他動詞で()をとる。

He complained that she had been rude to him.

「彼は彼女が失礼な態度だったとこぼした」

ポイント② look (見る), stare (見つめる)は普通自動詞として使うが、look/stare A in the face (Aの顔をじっと見つめる)という熟語的な形では()として働く。

② 自動詞と間違えやすい他動詞

- ・他動詞: 後ろに名詞[目的語]を置くと、前置詞が()動詞
 × discuss about politics → ○ discuss politics 「政治について論じる」

＜頻出の自動詞と間違えやすい他動詞＞

- ① 「Aと結婚する」→ () = ()
 ※ 「Aと結婚している」→ ()
 ② 「Aに似ている」→ () = () / ()
 ③ 「Aに近づく」→ ()
 ④ 「Aより長生きする」→ () / ⑤ 「 」→ ()
 ⑥ 「Aについて行く」→ () / ⑦ 「Aに話をする」→ ()
 ⑧ 「Aを待つ」→ () / ⑨ 「Aと連絡をとる」→ ()
 ⑩ 「Aに影響を与える」→ () = ()
 = ()
 ⑪ 「Aに参加する」→ () = () / ()
 ⑫ 「Aに出会う」→ ()

③ 紛らわしい自動詞と他動詞

① { attend () A : 「 attend () A : 「	attend A : 「 = ()
② { lie (lie - lay - lain) : 「 lie (lie - lied - lied) : 「	lying lay A (lay - laid - laid)
③ rise (raise - rose - risen) : 「	raise A : 「
④ sit = () : 「	() : 「
⑤ arise (arise - arose - arisen) 「	arouse A : 「
⑥ enter () A : 「	enter A : 「
⑦ search () A : 「	search A : 「
⑧ write () A : 「	write A : 「
⑨ leave () A : 「	leave A : 「
⑩ consult () A : 「	consult A : 「
⑪ { hear () A : 「 hear () A : 「	hear A : 「

<英語語法マスター②> 動詞の語法②

① 動名詞のみを目的語にとる動詞

動名詞は Ving なので、「
→ 「 」や「 」

」のイメージ

未来・現在・過去
どれにも使える

」を表す。

<enjoyタイプ→「実際」やってる・やった系>

- ①()/②()/③()「をやめる」/④()「を中断する」
⑤()「を避ける」/⑥()「を逃れる」/⑦()「を練習する」
⑧() [=]「を延期する」/⑨()「をしそこなう」
⑩()「を認める」/⑪()「を否定する」「を認めない」

He admitted committing the theft. 「彼は窃盗をしたことを認めた」
→ admitは「実際の行為」を認めるので、ingをとる

<imagineタイプ→「実際」やってる行為を思い浮かべる系>

- ⑫()「を想像する」/⑬() [=]「がどうか考える」
⑭()「を気にする・嫌がる」

Do you mind opening the window? 「窓を開けるのは嫌ですか」

→ 「窓を開ける」ところを想像して、嫌だなと思っている → 「窓を開けてもらえませんか」

※ Would [Do] you mind Ving? 「

<suggestタイプ→「誰か」に「実際」の行動を促す系>

- ⑮()「しようと提案する」/⑯()「するよう勧める」
⑰()「するよう助言する」※ advise ② to V 「

He advised consulting his teacher. 「彼は先生に相談するよう助言した」

② 不定詞のみを目的語にとる動詞

to不定詞は、実体のない概念や希望・願望、意図などを表す。→ 「 」的

<hopeタイプ→「これから向かう」系>

- ①()「を望む」/②()「を望む」/③()「したい」/④()
⑤()「を決める」/⑥()「を決心する」 「で合意する」
⑦()「と申し出る」/⑧()「と約束する」/⑨()「を予期する」
⑩() [=]「するつもりだ」/⑪()「を拒絶する」← rejectは Ving!

<manageタイプ→「ゴール」系>

- ⑫()「どうにかVする」/⑬()「Vできるようになる」/⑭()「Vしない」
⑮()「Vする余裕がある」/⑯()「ふりをする」

3 不定詞と動名詞で意味が違ふ動詞

★ ④ + to V は「目的」で、④ + Ving は「目的」が原則!

①	forget to V forget Ving	「 」 「 」	「 」 ← 「これからやるべきこと」を忘れる 「 」 ← 「前にやったこと」を忘れる
②	remember to V remember Ving	「 」 「 」	「 」 = () 「 」
③	regret to V regret Ving	「 」 「 」	「 」 ← 「これからせねばならない」のが残念 「 」
④	try to V try Ving	「 」 「 」	「 」 ← 実際にVできるとはかぎらない 「 」 ← 実際にVする
⑤	go on to V go on Ving	「 」 「 」	「 」 ← 「その先」の話まで続く 「 」 ← 「実際にVしている」のを続ける
⑥	stop to V stop Ving	「 」 「 」	「 」 ← このstopは「立ち止まる」の意味の④ 「 」 ← 「やっている最中」のものをいったん中断する
⑦	cease to be C cease Ving	「 」 「 」	「 」 ← be動詞や状態動詞の場合はto V 「 」 ← ()も可

4 動名詞が受動の意味を表す動詞

①	S () Ving S () Ving = S ()	「 」 → 「 」 「 」
②	S () Ving S () Ving	「 」 → 「 」 「 」

★ Vingの () がSになっている! → Vingの後ろはOが欠ける!

My shoes need[want] mending. 「私の靴を修繕する必要がある。」

The book is worth[deserves] reading. 「その本を読む価値がある。」
(は)

<英語語法マスター③> 動詞の語法③

1 使役動詞の語法パターン (make · have · let · help)

< make O C の C の3パターン >

① make O (): 「 He made her ^形angry. 「彼は彼女を怒らせた」

② make O (): 「 (英文法超基礎④2)
= (/) O ()

☆受動態では () になる!

○ He was made to pay his debts. 「彼は借金を返させられた」

× He was made pay his debts.

= He was forced / compelled / obliged to pay his debts.

③ make O (): 「 → 次の3つを覚える!
→ (): 「
(): 「
(): 「

< have O C の C の3パターン >

① have O (): 「 ← 義務的なイメージ
= (/) O () 使役 受身・被害 完了

② have O (): 「
= () O ()

③ have O (): 「

< let O C の3パターン >

① let O (): 「 ← 「本人の望み通りに」
= (/) O () ← 受動態でよく使われる

② let O (): 「

③ let O (): 「 Let me in. 「中に入れて」

< help の2パターン >

① help O (): 「

② help A () B: 「 He helped me with the work. 「彼は私の仕事を手伝ってくれた」

2 知覚動詞の語法パターン

< hear タイプ >

- ① hear O { (): 「
 (): 「
 (): 「
 他にも
 () 「見る・見える」 / () 「見る」 / () 「見守る」 / () 「感じる」
 () 「聞く」 / () 「気がつく」

← 一部始終

← その瞬間のみ

- ② 受動態にすると () を必要とする! Ving はそのまま!

I heard the bell ring. → The bell was heard **to ring**. 「ベルが鳴るのが聞かれた」

※ watch は受動態にしない!

- ③ 上記の動詞のうち、O + Vp.p. をとることができるのは () !

< find タイプ >

- ① find / catch O (): 「

I caught the boy stealing fruit. 「私はその少年が果物を盗むところを見つけた」

- ② find O (): 「

← catch はこの形はない

I found my purse gone. 「私はさいふが無くなっているのに気付いた」

3 that 節に原形を使う動詞 ← 英文法超基礎⑧

提案・要求・依頼など、「人に何かをさせたい」という意味を持つ動詞の後ろの that 節では、() を用いる! (should + V を使うこともある)

< that 節に原形を使う V >

- ① () 「要求する」 / ② () 「要求する」 / ③ ()
 ④ () 「要求する」 / ⑤ () 「提案する」 「勧める」
 ⑥ () 「提案する」 ☆①～⑥は頻出! "DRIPS" と覚える!
 ⑦ () 「頼む」 / ⑧ () 「命令する」

They suggested (to him) that he see a doctor.

「彼らは彼に医者に行くよう勧めた」

☆ 「人に何かをさせる」の意味がないときは、原形を使わない!

Her remarks suggested that she was angry.

「彼女の口調からすると頭にきているようだ。」

<英語語法マスター④> 動詞の語法④

1 SVO と V タイプの動詞一覧

<SVO と V 型の代表的な動詞>

- ① () 「OにVするよう忠告する」→直後に O V は X! () なら O
☆ () や () をとることもできる。
- ② () 「OがVするのを許す」→ () は続かない! (受身多)
☆ 「認める」の意味だと、() と () をとる。
- ③ () 「OにVするよう頼む」→ () で表すことはできない!
- ④ () 「OがVする原因となる」(受身多)
- ⑤ () 「OにVするよう命じる」→ () は X!
- ⑥ () 「OにVすることを強いる」→ () は続かない! (受身多)
- ⑦ () 「OにVするよう追いやる・駆り立てる」
- ⑧ () 「OがVするのを可能にする」← 無生物主語の構文によく使われる!
- ⑨ () 「OがVするよう励ます・勧める」
- ⑩ () 「OがVすると予期する・期待する」= ()
※ () 「Vするつもりである」
- ⑪ () 「OにVすることを強いる」→ () は続かない! (受身多)
- ⑫ () 「OにVするよう勧める」※ () 「OをAに招待する」
- ⑬ () 「OにVするのを任せる」← () 「OをOに任せる」
- ⑭ () 「OにVするようにし向ける」※ () 「Aへ通じる」
- ⑮ () 「OにVしてもらいたい」← () 「Vしたい」
= () / () / ()
- ⑯ () 「 = ()
※ () 「AをBに注文する」← O はダメ!
- ⑰ () 「OがVするのを許す」→ () は続かない! (受身多)

1 つづき

⑮ () 「Oを説得してVさせる」= ()
 → 「納得させる」の意味では () をとる。← 「Oに～を納得させる」

⑯ () 「OにVすると約束する」← Oは意味上の主語ではない!
 He promised me to come at nine. 「彼は私に9時に来ると約束した」
 → 「come」するのはOである「me」ではなくSの「He」!

⑰ () 「OにVすることを思い出させる」← 原因・動機となるものをSにする
 ※ (/) 「AにB[S'V']を思い出させる」

⑱ () 「OにVするよう要求する」→ Oには () も可! ← 原形系!

⑲ () 「OにVするよう言う」

⑳ () 「OがVするよう強く促す」→ () ・ () は不可!
 ☆ 「の意味では that 節をとる! ← 原形V系

㉑ () 「OにVするよう警告する」→ () も可
 「AにBを警告する」→ ()

2 SVO と V の形をとれない注意すべき動詞

① () 「認める」→ () / () / ()

② () 「許す」→ () / () 「AをBのことで許す」

③ () 「許す」→ () 「AをBのことで許す」

④ () 「要求する」→ () / () 「AをBに
 請求する」

⑤ () 「提案する」→ () / ()

⑥ () 「提案する」→ () / ()

④～⑥は「人」を目的語としておくことができない。→ () にする!

⑦ () 「説明する」→ (/) ← O₁O₂はダメ!

⑧ () 「希望する」→ () / () / ()

「㊦がVするのを望む」 「SがV'でありますように」 「Aを期待する」

⑨ () 「禁じる」→ () 「㊦にVすることを禁じる」

<英語語法マスター⑤> 動詞の語法⑤

1 SVCの形をとる動詞 ← 英文法超基礎④⑤

①「～である」

(/ / / /) + 形・名

②「～のままでいる」

(/ (lie- - -) / / /) + 形

③「～であることがわかる」

(/) (to be) + 形・名

④「～になる」

() + 形・名 / (/ /) + 形

() + 形 ← 肯定的な意味のみ! come true 「実現する」

(/ /) + 形 ← 否定的な意味のみ! go bad 「(食べ物)が腐る」

⑤ 知覚動詞

() + 形 / () + 名 「～に見える」

() + 形 / () + 名 「～に聞こえる・思われる」

() + 形 / () + 名 「～の感じがする」

() + 形 / () + 名 「～の味がする」

() + 形 / () + 名 「～のにおいがする」

⑥ () + 形・名 「～に思える」

2 注意すべき do の用法

<自動詞の do>

() の形で「

」の意味を表す

This place will do for playing baseball. 「この場所は野球をするのに十分だ」

<二重目的語をとる do>

① () 「Aのためになる」 = () ← good 「利益」

② () 「Aの害になる」 = () ← harm 「害」

③ () 「Aの頼みを聞き入れる」

④ () 「Aに損害を与える」 = ()

3 重要な SVOO 型の動詞 ← 英文法超基礎④

① () O ₁ O ₂ 「	「 (to 型) ← O to V がほとんど
② () O ₁ O ₂ 「	「 (O ₁ O ₂ の入れ換え不可)
③ () O ₁ O ₂ 「	「 (to 型)
④ () O ₁ O ₂ 「 () : 「	「 「 「 「
⑤ () O ₁ O ₂ 「	「 (to 型)
⑥ () O ₁ O ₂ 「	「 (O ₁ O ₂ の入れ換え不可)
⑦ () O ₁ O ₂ 「	「 (to・for 両方可) ← O to V がほとんど
⑧ () O ₁ O ₂ 「	「 (for 型) / 「 (to 型)
⑨ () O ₁ O ₂ 「	「 (to 型)
⑩ () O ₁ O ₂ { 「 「 「	「 (to・for 両方可) ← borrow は 「 (to 型) SVO のみ! 「 = ()
⑪ () O ₁ O ₂ 「 ※ save O 「	「 (for 型) 「 「
⑫ () O ₁ O ₂ 「	「 (for 型) 「
⑬ () O ₁ O ₂ 「 → () : 「	「 ← 「お金」の場合は cost 「
⑭ () O ₁ O ₂ 「	「 (to 型)
⑮ () O ₁ O ₂ 「	「

<英語語法マスター⑥> 動詞の語法⑥

① 活用形を間違えやすい動詞

< lieタイプ: 活用形がダブるモノ >

①	lie (自) 「横たわる、ある」	lie — () — () — ()
	lie (自) 「うそをつく」	lie — () — () — ()
	lay (他) 「を置く」	lay — () — () — ()
②	fall (自) 「落ちる・倒れる」	fall — () — ()
	fell (他) 「を倒す」	fell — () — ()
③	find (他) 「を見つける」	find — () — ()
	found (他) 「を創設する」	found — () — ()
④	see (他) 「を見る」	see — () — ()
	saw (他) 「きのこぎりでひく」	saw — () — ()
⑤	wind (他) 「を巻く」	wind — () — ()
	wound (他) 「を傷つける」	wound — () — ()

< riseタイプ: 形が似てて、混同しやすいモノ >

①	rise (自) 「上がる」	rise — () — ()
	raise (他) 「を上げる・育てる」	raise — () — ()
②	fly (自) 「飛ぶ」	fly — () — ()
	flee (自) 「逃げる」	flee — () — ()
	flow (自) 「流れる」	flow — () — ()
③	welcome (他) 「を歓迎する」	welcome — () — ()
	overcome (他) 「を克服する」	overcome — () — ()

< hangタイプ: 意味によって活用形が変わるモノ >

①	hang (他) 「を掛ける」	hang < () — ()
	hang (他) 「を絞首刑にする」	hang < () — ()
②	shine (自) 「輝く」	shine < () — ()
	shine (他) 「を磨く」	shine < () — ()
③	bear (他) 「に耐える」	bear < () — ()
	bear (他) 「を産む」	bear < () — () ()

2 意外な意味を表す自動詞

① () 「 」 = ()

The storm lasted for two days. 「嵐は2日間続いた」

② () 「 」

Kindness sometimes does not pay. 「親切は時に割に合わないことがある」

③ () 「 」

Her letter reads like a poem. 「彼女の手紙は詩のように読める」

④ () 「 」

This dress should sell for \$150. 「この服は150ドルで売れるはずだ」

3 「言う」系の動詞の用法

< say の用法 >

① () / () }

② S [新聞・雑誌] say that S' V ~ : 「

< tell の用法 >

① () : 「

② () : 「

③ () : 「

④ () : 「 」 ← O が 1 つだけのときは
基本「区別する」

⑤ () 「 」 / () 「 」 ↓ 例外

⑥ () 「 」

< talk の用法 >

① () : 「 」 / ② ()

③ () : 「

④ () : 「 」 ③・④は(他)

< speak の用法 > (← 言語を O にとるときのみ(他))

① () : 「 」 / ② () : 「 」

＜英語語法マスター⑦＞ 動詞の語法⑦

1 A of B型の動詞

askタイプ: 要求を表すモノ

- ① () 「頼む」 / ② () 「懇願する」 / ③ () 「要求する」
④ () 「期待する」 / ⑤ () 「要求する」

(A)上の V は " $V A \text{ of } B$ " の形で「 $\quad$ 」の意味!

Don't expect some cooperation of her. 「彼女に協力を期待するな」

(B)(A)の形のまま of の代わりに () も用いられる!

※ ask・beg は ask/beg () の形で「もある」。

<informタイプ:通知・説得を表すモノ>

- ①()「確信させる」/②()「知らせる」
③()「納得させる」/④()「思い出させる」
⑤()「の嫌疑をかける」/⑥()「警告する」

(A)上の V は" $V A \text{ of } B$ "の形で「 $\rightarrow$ が基本的な意味

He informed me of her arrival. 「彼は私に彼女の到着を知らせてくれた。」

※1. warnは「Bに対して身を守れ」という意味のときには ofではなく()を使う。

※2. これらの動詞は () の形で「も表す!

< robタイプ: 除去・奪取を表すモノ >

- ①()「取り除いて片づける」/②()「取り除いて治す」
③()「奪う」/④()「取り出して空にする」
⑤()「取り除いて楽にする」/⑥()「取り除く」
⑦()「奪う」/⑧()「はぎとる」

・上のVは“V A of B”の形で「」の意味を表す!

They **robbed** the man **of** his watch. 「彼らはその男**から**腕時計を**奪**った。」

☆「盗む」シリーズ 「彼は私からお金を奪った」

$$\left(\begin{array}{c} \text{ } \\ \text{ } \end{array} \right) = \left(\begin{array}{c} \text{ } \\ \text{ } \end{array} \right)$$

He robbed me of my money. = He stole my money from me.

→ I was robbed of my money. = My money was stolen.

2 A for B型の動詞

< blameタイプ: 賞罰・非難を表すモノ >

- ① () 「称賛する」 / ② () ・ () 「非難する」
 ③ () 「に罰金を科す」 / ④ () 「許す」
 ⑤ () 「許す」 / ⑥ () 「ほめる」 / ⑦ () 「罰する」
 ⑧ () 「に賞を与える」 / ⑨ () 「尊敬する」
 ⑩ () 「叱る」 / ⑪ () 「に感謝する」

(A) 上のVは "V A for B" の形で「
 We praised him for his diligence. 「私たちは彼を勤勉だとほめた。」を表す!

(B) forの次に () をおいて、「
 He scolded her for neglecting her duty. 「彼は義務を怠ったことで彼女を叱た。」という形も多くとる!

(注) () 「責める・訴える」は forではなく () をとるので注意!

I accused him of stealing a car. 「彼を車の窃盗罪で訴える」

(注) () 「責める・訴える」は forではなく () をとるので注意!

I accused him of stealing a car. 「彼を車の窃盗罪で訴える」

3 A with B型の動詞

< provideタイプ: 供給・付託を表すモノ >

- ① () 「備えつける」 / ② () 「供給する」 / ③ () 「供給する」
 ④ () 「と比較する」 / ⑤ () 「と同一視する・関連づける」
 ⑥ () 「印象づける」 / ⑦ () 「贈る・与える」
 ⑧ () 「供給する」 / ⑨ () 「供給する」
 ⑩ () 「分かち合う」 / ⑪ () 「供給する」

(A) 上のVは "V A with B" の形で「
 I furnished the kitchen with a cupboard. 「台所に食器棚を取り付けた。」の意味を表す!

(B) presentは () をとることもある。() ・ () ・ ()
 もアメリカ英語では () をとる。

(C) AとBの順を逆にして () や () をとるものがある。

(1) toをとるもの → () ・ () ・ () ・ ()

(2) forをとるもの → () ・ ()

(注) feedは「BでAを飼う」の意味では () となる。

＜英語語法マスター⑧＞ 動詞の語法⑧

① A from Ving 型の動詞

＜preventタイプ:妨害・守護を表すモノ＞

- ① () / () 「思いとどまらせる」
- ② () / () / () 「妨げる」 ← from は省略あることも
- ③ () 「妨げる」 ← from は省略されることがない
- ④ () / () / () 「禁じる」
- ⑤ () 「A を ~ から 救う」「不要にする」

・上のVは"V A from Ving"の形で「」などの
意を表す。「」と訳すことが多い。

Illness prevented me from coming to school. 「病気のため登校できなかった」

↑ keep, preventは無生物主語の構文によく用いられる!

2 V A as B型の動詞

＜AをBとみなす＞

- ① () / ② () / ③ () / ④ () / ⑤ ()

We regard him as a hero. 「私たちは彼を英雄だと思う。」

③ V A to B 型の動詞

＜対象の如タイプ＞

- ① () 「AをBに如える」
- ② () 「AをBに割り当てる」
- ③ () 「AをBのせいにする」
- ④ () 「AをBに持ってくる・連れてくる」
- ⑤ () 「AをBと比較する」「AをBにたとえる」
- ⑥ () 「AをBに寄付する・与える」
- ⑦ () 「AをB(の状態)にする」
- ⑧ () 「AをBにさらす」
- ⑨ () 「AをBに任せる」
- ⑩ () 「AをBに持っていく・連れていく」
- ⑪ () 「AについてはBのおかげである」

④「感謝する」シリーズ

① ()
= ()

I am thankful to him for saving my life.

私は命を救ってくれたことで彼に感謝してる。

②()「事・物」をとる点に注意!

I appreciated his help when we moved.

「引っ越しのとき彼が手伝ってくれたことを感謝した。」

＜慣用表現＞

① ()
= () ← おおげさなニュアンス

② ()

5 「合う・似合う」シリーズ

① () A ^r

The shoes fit him in a size. 「その靴は彼に(大きさが)合っている」

② () / () A^r

Her red dress suits / becomes her. 「赤いドレスが彼女に似合っている」

※ suit は ほかにも「

「という意味もある!

What time suits you best? 「何時が一番ご都合がよろしいでしょうか」

③ () / () A^r

The shoes match / go with her jacket. 「その靴は彼女のジャケットに合っている。」

<英語語法マスター⑨> 動詞の語法⑨

1 「貸す」「借りる」の識別

	英単語	特 徴
「貸す」	()	・ () = () の形! ・ 移動 () な物を () で貸す
	()	・ () = () の形! ・ 移動 () な物を () で貸す I loaned him the money. 「彼に(有利子で)お金を貸した」
「借りる」	()	・ () の形! ・ 移動 () な物を () で借りる Can I borrow your pen? 「ペンを借りてもいい?」
	()	・ 移動 () な物を () で借りる May I use the restroom? 「トイレを借りてもよろしいですか」 → トイレ・電話などをその場で使わせてもらうときに用いる
	()	・ () などを () で借りる hire a theater 「劇場を(代金を払って)借りる」
	()	・ () = () の形! I owe my brother \$50. 「兄に50ドル借りている」
「貸す」 「借りる」	()	・ () などを () で貸す・借りる ・ () = () の形! I rented the house to him at \$500 a month. 「私はその家を月500ドルで彼に貸した」 ・ () 有料で I rent an apartment from her. 「彼女から部屋を借りる」

2 「疑う」の識別

・ () that ~ : 「 ≡ () that ~ ※ () 「 」	「 」 → 「 」
・ () that ~ : 「 ≡ () that ~ ※ doubt if/whether ~ : 「 」	「 」 → 「 」

③「思いつく」「思い出す」の識別

＜「思いつく」の識別＞

①田舎船に人がくる→()/()/()

A good idea occurred to / hit / struck me. 「よい考えが浮かんだ」
(考え) (人)

② 目的語に 考え がくる → () / () / ()

I hit on/came up with/thought of a good idea. 「よい考えを
② 考えた」

※主語によって動詞が変わる点に注意! occurに関しては
()という形になることも多い!

① It occurred to me <that he loved her> 「彼は彼女を愛しているのだ
と思った。」

＜「思い出す」の識別＞

①⑦が主語で②が目的語

$$\rightarrow (\quad) \oplus (\quad) / (\quad) / (\quad)^r$$

This picture reminds me of our holiday.

「この写真は私にあの休日を思い出させる」→「この写真を見るとあの休日を思い出す」

② 人 が主語で ① が目的語

$$\rightarrow (\quad) / (\quad) / (\quad) / (\quad) \sim$$
$$= (\quad)_n$$

I remember our holiday when I see this picture.

② I remember our holiday when I see this picture.
この写真を見ると、私はあの休日を思い出す。

4 「許す」の識別

①「許可を与える」→ ()

The doctor allowed/permitted her to get up.

「医者は彼女がベッドから起きることを許可した。」

↑ これからすることを許す

②「罪などを許す」→()

They forgave/excused him for his crimes. 「彼らは彼の罪を許した」

↑ やったことを許す

<英語語法マスター⑩> 動詞の語法⑩

①「着る」の識別

①状態を表す: 「~を着ている」

→ () (- -) / () / ()

He always wears brown shoes. 「彼はいつも茶色の靴をはいている」

②動作を表す: 「~を着る」→ ()にできる!

→ () / () / ()

() ← ~の部分がないとき ()の語順!

Get dressed・Dress yourself in / Put on black quickly.
「すぐに喪服を着なさい」

②「傷つく」の識別

① () 「を傷つける」→ 「ケガをする」という表現は ()で表す!

He was seriously injured in an automobile accident.
「彼は自動車事故で重傷を負った」

② () 「を負傷させる」→ 「負傷する」という表現は ()で表す!

He was wounded in the arm. 「彼は腕を負傷した」

※ injureは通例事故などでけがをするときに用い、woundは凶器などで傷を負うときに用いる!

③ () 「に損害を与える」← “建物・作物”がくることが多い

It will damage the crops. 「穀物に損害を与えるだろう」

※ 人には使わないが人の体には使う damage your health 「君の健康を害する」

④ () 「を傷つける」= () ← こっちの方が堅い語

She hurt her leg. 「彼女は脚をけがした」

※ 「交通事故で死ぬ」は () となり、
dieは使えない!

③「かく」の識別

① () → () を書く He wrote this book. 「彼がこの本を書いた」

② () → () I'll draw a map. 「地図を描いてあげる」

→ 線で物を描くことを表す

③ () → () He painted pictures. 「彼は絵を描いた」

④「望む・願う」の識別

「望む」系は(/ /)の3語!

→「ありえることを願う」のが() ← 直説法

「ありえないことを願う」のが() ← 仮定法

< wish の用法 >

① () で用いる ← that 節内

I wish I had bought the book. 「その本を買っていたらなあ」
had + V.p.p.

② (): 「V したいと思う」

③ (): 「②に V してもらいたい」

④ (): 「A を望む」

< hope の用法 >

① () ← () (同じ用法) 「予期する」・() 「予測する」

I hope (that) you will pass the exam. 「君が試験に合格することを
hoped (that) you would pass the exam. 望んでいる/いた」

② (): 「V することを望む」

③ (): 「②が V することを望む」 ← for を忘れずに!

④ (): 「A を望む」 We hope for world peace.
「私たちは世界平和を望んでいる」

< want の用法 >

① () はとれない!

② (): 「V したい」

③ (): 「②に V してもらいたい」

④ () は不可!

※ () 「を切望する」は () と同じ語法!

⑤「勝つ」の識別

「人に勝つ」→ () 「物に勝つ」→ ()

• He won the game. 「彼はその試合に勝った」

• He beat me. 「彼は私に勝った(を打ち負かした)」

↳ beat - beat - beaten ↑ I was beaten by him. 「彼に負けた」

<英語語法マスター⑪> 名詞の語法①

① 覚えておくべき不可算名詞

以下に挙げる名詞は常に不可算名詞で、a・anを付けることも複数形になることもない!

→数えたいときは()や()などを使う!

最頻出	①()「忠告」/②()「手荷物」(米)
	③()「家具」/④()「情報」
	⑤()「宿題」/⑥()「知識」
	⑦()「手荷物」(英)/⑧()「知らせ」
	⑨()「仕事」←「 」の意味なら可算名詞!
頻出	⑩()「損害」/⑪()「証拠」/⑫()「楽しみ」
	⑬()「害・損害」/⑭()「家事」/⑮()「紙」
	⑯()「進歩」/⑰()「交通(量)」/⑱()「天候」
発展	⑲()「装備」/⑳()「宝石(類)」←()は可算
	㉑()「機械」←()は可算/㉒()「郵便物」
	㉓()「詩」←()は可算/㉔()「文房具」

(例) Each room has five pieces of furniture. 「各部屋には家具が5点ずつある」
 (×) Each room has five furnitures.

★形容詞がついても(/)はつかない!

(例) She has made rapid progress in English. 「彼女は英語の力が急速に進歩した」
 (×) She has made a rapid progress in English.

★()は形容詞がつけば、(/)がつく!

(例) He has a good knowledge of Japan. 「彼は日本のことをよく知っている」

※()・()・()・()も形容詞がつくと
 (/)が必要!

(例) a delicious lunch

② 不可算名詞 roomの用法

不可算名詞の room は「 / / 」の意味を表す。

- () 「

There is still room for improvement. 「改善の余地がまだある」

- () 「
≡ ()

There is no room for doubt about his guilt. 「彼の有罪は
= His guilt leaves no room for doubt. 疑いの余地がない」

- () 「

Will you make room for me? 「私に場所を空けてくれませんか」
→ 「少し詰めてくれませんか」

③ 常に複数形を用いる表現

< friend タイプ >

- ① () 「友人」 () 「
() 「

- ② () 「間柄」 () 「

friend が複数になるのは交友には **相手が必要** だからで、term の方は「間柄」の意では常に terms という形で用いる。

○ I am great friends with him. 「私は彼と大の仲良しだ」

× I am great friend with him.

< shake hands タイプ >

- ① () 「握手する」 / ② () 「乗り換える」

- ③ () 「席をとり換える」

- ④ () 「交代で〜する」

上記の句はそれぞれ相手が必要なので **複数形** をとる!

You must change trains at this station. 「この駅で乗り換えねばならない」

<英語語法マスター⑫> 名詞の語法②

① 常に複数の形をしている名詞と数の一致

名詞の中には常に複数形をしているものがある。そうした名詞が単数扱いなのか複数扱いなのかもセットでおさえる!

< mathematicsタイプ >

- ① () 「経済学」 / ② () 「倫理学」 / ③ () 「ニュース」
 ④ () 「数学」 / ⑤ () 「物理学」
 ⑥ () 「はしガ」 / ⑦ () 「ビリヤード・玉突き」

・上記の各語は () 扱いが普通!

The news is bad today. 「今日のニュースは悪い」

< scissorsタイプ >

- ① () 「めがね」 / ② () 「ズボン」 / ③ () 「ズボン」
 ④ () 「めがね」 / ⑤ () 「ハサミ」

・上記の語のように、二つの等しい部分が一つになっている服飾用品や道具名は常に () で用いる。() 扱いが基本だが () 扱いもある。

Where are my trousers? 「私のズボンはどこにある?」

・これらの名詞は these・those などの () の修飾語を伴う。数えたいときは () を使う!

These scissors are [This pair of scissors is] sharp. 「このハサミはよく切れる」

< meansタイプ: 複数形で特別な意味となるモノ > → () 扱い

- ① () 「武器」 / ② () 「気取った様子」 → () 「気取る」
 ③ () 「軍隊」 / ④ () 「関税・税関」 / ⑤ () 「商品」
 ⑥ () 「文学」 → () 「文学者」
 ⑦ () 「礼儀作法」 / ⑧ () 「資産・収入」 ← ⑨ () 「苦勞・骨折り」 → () 「苦勞する」
 ⑩ () 「よろしくというあいさつ」 → () 「Aによろしくと伝える」
 → () = ()
 ⑪ () 「気分」 → () 「上機嫌である」
 ⑫ () 「工場」

② 形は単数でも複数で受ける集合名詞

< 単複両用の扱いをするタイプ >

- ① () 「聴衆」 / ② () 「クラス」 / ③ () 「委員会」
 ④ () 「乗組員」 / ⑤ () 「群衆」 / ⑥ () 「家族」
 ⑦ () 「政府」 / ⑧ () 「陪審員」 / ⑨ () 「チーム」

・上記の語は、これらの集合体を一つの単位としてまとめて考えるときは () で受けるが、それらを構成する個々のメンバーを考えていうときは () で受ける。

(○) There was a large audience at the concert.

(×) There were many audiences ... 「コンサートの聴衆は大勢だった。」

(○) My family are all very well. 「家の者は皆とても元気だ。」

< 常に複数扱いをするタイプ >

- ① () 「牛」 / ② () 「人々」 / ③ () 「警察」

・上記の語は、形は単数でも常に () で受ける!

The police were looking into the case. 「警察はその事件を調査していた。」

・このタイプは、形は単数だが (/) をつけることはなく、また () にはならない。the をつければ総称の意味になる。

・people は「人々」の意味で使うときはこのタイプになるが、「」の意味では単数なら a がつくし、複数なら peoples となる。

the police 「警察」 a policeman 「(個々の) 警官」

③ 「客」を表す名詞

① ()	「(弁護士・建築家などの) 依頼人」
② ()	「商店・レストランの客・顧客」
③ ()	「招待客・ホテルの宿泊客」
④ ()	「乗客」 / ⑤ () 「訪問客・来客・見舞客」
⑥ ()	「(劇場などの) 観客・観衆・聴衆」
⑦ ()	「(スポーツなどの) 観客・見物人」 / ⑧ () 「患者」

<英語語法マスター⑬> 名詞の語法③

①「お金」に関する名詞

① ()	「乗り物の運賃」	
② ()	「専門職に対して支払う料金」 a lawyer's fee 「受験・入場・入会のための料金」 「弁護士料」	
③ ()	「入場料」	④ () 「授業料」
⑤ ()	「サービスに対して支払う料金」 「(電気・ガスなどの)公共料金・使用料」	
⑥ ()	「家賃・賃料」	⑦ () 「収入」
⑧ ()	「経費・費用」	⑨ () 「費用」
⑩ ()	「利子・利息」	⑪ () 「手数料・歩合」
⑫ ()	「(一般的な)報酬・手当」	
⑬ ()	「賃金」	⑭ () 「給料・賃金」
⑮ ()	「利益」	⑯ () 「税金」
⑰ ()	「罰金」= ()	
⑱ ()	「現金」	⑲ () 「小切手」
⑳ ()	「小銭・つり銭」 Keep the change.	

②「予約・約束」を表す名詞

- ① () 「(飛行機・ホテル・劇場・レストランなどの)予約」
- ② () 「(人と会う)約束」
- ③ () 「予約」= ()
- ④ () 「(雑誌などの)予約購読(料)」
- ⑤ () 「(何かをするという)約束」

③「仕事」を表す名詞

① ()	「割り当てられた仕事・宿題」(可算名詞)
② ()	「事業・職務」(不可算名詞)
③ ()	「経歴・(生涯の)仕事」
④ ()	「仕事」(可算名詞) ← () は不可算名詞
⑤ ()	「職業」
⑥ ()	「専門職・知的職業」
⑦ ()	「課された仕事・任務・課題」

④ go to ~ と the の有無

< go to school タイプ >

- ① () 「寢床」 / ② () 「野営地」 / ③ () 「教会」
 ④ () 「大学」 / ⑤ () 「病院」 / ⑥ () 「市場」
 ⑦ () 「学校」 / ⑧ () 「海」

・上記の建物・場所などを表す語は、その建物や場所そのものを表すときには () をつけるが、それらの果たす機能や目的を表すときには () で用いる。

○ He is old enough to go to school.

「彼はもう学校へ

× He is old enough to go to the school.

行ってもよい年だ」

・上記の語は、go to ~ の形だけでなく、() などの形でも使われる。

He is in hospital now. 「彼は今入院中だ」

(注) hospital, market は the をつける場合もある。

上記の語のほかには be at table 「食事中だ」、be in class 「授業中だ」などもある。

< go to the cinema タイプ >

- ① () 「映画館」 / ② () 「大学」 ← 無冠詞もある

上記の語は、本来の目的で行く場合にも () / () がつく。

<英語語法マスター⑭> 名詞の語法④

① 意味が紛らわしい名詞

- ① { () 「歯医者」
 () 「外科医」
 () 「内科医」
- ② { () 「いところ」
 () 「甥(おい)」
 () 「姪(めい)」
- ③ { () 「(光の当たらない)日陰」 a pleasant shade 「気持ちのよい陰」
 () 「影」 the shadow of a woman 「女の人の影」
形容詞で修飾するときにつく
- ④ { () 「鳥や羊の群れ」 a flock of sheep 「ヒツジの群れ」
 () 「牛や馬の群れ」 a herd of cattle 「牛の群れ」
 () 「魚の群れ」 a school of sardines 「イワシの群れ」
- ⑤ { () 「社会慣習」
 () 「個人的習慣・癖」
- ⑥ { () 「道路の車線」
 () 「公園・庭園内の歩道」
- ⑦ { () 「(特定の場所からの)眺め」 a water view 「海の見える～」
 () 「風景」(不可算名詞)
- ⑧ { () 「(商品)手本」
 () 「(人がまねる)手本・見本」

② 冠詞に注意が必要な名詞

<ラジオ・テレビ系>

- ① () 「ラジオ」/② () 「テレビ」/③ () 「電話」

- ・上記の語は、受信機を意味するときには () がつく。
 Do you have a color television. 「カラーテレビを持っていますか？」
- ・放送や電話網の意味では radio と telephone は () をつけるが、television は無冠詞で使う場合が多い。← on がつくとき the がつくこともある
 You are wanted on the telephone. 「あなたに電話です」

<町・田舎系>

- ・ () は「田舎」の意味では常に () をつけ、() は自分になんらかの関係がある都市を意味するときは () 。
- city は the がつく

③意味に注意が必要な名詞16選

① case: 「 . 」 be the case 「 」

That is not the case. 「それは本当ではない」 = ()

② capacity: 「(建物・部屋などの) 」 「(工場などの) 」

The hall has a seating capacity of 200. 「そのホールには200人分の席がある」

The factory is working below capacity. 「工場はフル稼働していない」

③ command: 「 」

→ have a good command of A: 「 」

She has a good command of English. 「彼女は英語が達者である」

④ copy: 「(書籍・新聞・雑誌の) 」

I need two copies of today's paper. 「今日の新聞が2部ほしい」

⑤ fault: 「 」 → A's fault: 「 」

It's my fault. 「それは(他ならぬ)私のせいです」

⑥ effect: 「 」 → to that effect: 「 」

words to that effect 「そのような趣旨の発言」

⑦ image: 「 」 → the image of A: 「 」

The baby was the very image of his father. 「その赤ちゃんは父親にそっくりだった」

⑧ line: 「 」 ← drop A a line: 「 」

→ What line (of work/business) is S in? 「 」

⑨ idea: 「 」 → have no idea + wh 節: 「 」

I have no idea how the robbers entered the building.

「強盗がその建物にどう入ったのか見当もつかない」

⑩ nerve: 「 」 → What a nerve (you have)! 「 」

→ have the nerve to V: 「厚かましくもVする」

⑪ safe: 「 」 / ⑫ stranger: 「 」

⑬ sense: 「 」 → a man of sense: 「 」

⑭ shame → It's a shame that 節 「 」

⑮ subject: 「 」 / ⑯ word: 「 」

<英語語法マスター⑮> 形容詞の語法①

① 数や量を表す形容詞

<可算名詞につけて「数」を表すタイプ>

① () 「たくさんの」 = () + 単数形 ← () 扱い!

I've sat here many times / many a time. 「私はここに何度も座った」

・ () + 複数名詞: 「 」

② () 「いくつかの」 ≡ () 「少しの・2・3の」

She gave me several books. 「彼女に何冊もの本をもらった」

I've got a few books on education. 「教育に関する本を2,3冊持ってる」

※ several は「多い」ニュアンスの、a few は「少ない」ニュアンスの「いくつかの」

③ () 「ほとんど〜ない」 ← 比較級 () もよく出る!

Children have fewer teeth than adults. 「子どもは大人より歯が少ない」

④ () = () 「かなり多数の」

<不可算名詞につけて「量・程度」を表すタイプ>

① () 「たくさんの・多量の」 ← 否定文で 「 」 という意味!

They do not have much company. 「彼らには仲間があまりいない」

↑ many companies では「多くの会社」となる

② () 「少しの」

We spent a little time in Rome. 「ローマでしばらく時間を費やした」

③ () 「ほとんど〜ない」

I have very little money left. 「お金はわずかしが残っていない」

④ () 「たくさんの・多量の」 = much

We had a good deal of snow last winter. 「去年の冬は雪が多かった」

() = () 「かなりの量の」

☆ () 「 」 ← () で

(例) a large amount of damage 「相当な被害」 量の大小を表す

※ 可算・不可算両方につく → () ・ () ・ () ・ () など

② 注意すべき「多少」の表現

「多い・少ない」を表すのに、以下の語は many や much は使えない!

① (/)タイプ

- ① ()「量」/ ② ()「出席者」/ ③ ()「聴衆」
 ④ ()「群衆」/ ⑤ ()「費用」/ ⑥ ()「収入」
 ⑦ ()「数」/ ⑧ ()「家族」/ ⑨ ()「人口」
 → ()「多くのA」← 複数扱い
 ()「Aの数」← 単数扱い
 ⑩ ()「給料」/ ⑪ ()「金額」

(例) ○ The number of cars was rather small. 「車の数はかなり少なかった」
 × The number of cars was rather few.

(注) 距離・高さなどのような線状の大きさには () を用いる。

The town is a great distance off. 「町はずっと遠い」

② (/)タイプ

- ① ()「費用」/ ② ()「収入」/ ③ ()「利子」
 ④ ()「報酬」/ ⑤ ()「価格」/ ⑥ ()「給料」
 ⑦ ()「賃金」

(例) The price of the camera is high. 「そのカメラの値段は高い」

→ The price of the camera is expensive/cheap. は ×

③ 目的語をとる形容詞

形容詞の中には目的語をとるものがある。→ () として考える!

① ()「似ている」 I have a dress like yours. 「あなたのドレスにそっくりなものを^{持っている}」

② ()「近い」← 比較級や最上級、抽象的意味に用いるときに () を伴う。

His thoughts were near to mine. 「彼の考えは私の考えに近かった」 ↑ 省略可

③ ()「反対の」

④ () + () 「Vする価値がある」

= ()

This book is worth reading (○). 「この本は読む価値がある」

<英語語法マスター①⑥> 形容詞の語法②

① 分詞形容詞

surprise 「驚かせる」、excite 「興奮させる」など感情を表す動詞系は「する」ではなく、「させる」というのがデフォルト!

→ 原因が人にある感情を起こさせる というイメージ!

The news surprises me. 「そのニュースは私を驚かせる」

↓
こういった動詞が「be動詞 + Ving」や「be動詞 + Vp.p.」の形で使われると、それぞれの分詞は () として扱われる! これを分詞形容詞と呼ぶ。

① Vingは能動 → 原因をSにして 「 」という形

The news was surprising. 「そのニュースは驚かせていた」
→ 「そのニュースは驚きだった」

名詞の前に分詞形容詞をつけるときにはその名詞が 「 」となる。

This is surprising news. 「これは驚きのニュースだ」
(原因)

② Vp.p.は受動 → ()をSにして 「 」という形

I was surprised at the news. 「私はそのニュースに驚かされた」
→ 「私はそのニュースに驚いた」

名詞の前にVp.p.の形容詞をつけるときはその名詞が「(ある原因によって感情を引き起こされた)人」となる。 an excited audience 「エキサイトした観衆」

<分詞形容詞>

- | | |
|-------------------------------------|-----------------------------------|
| ① { () 「驚嘆すべき」
() 「驚嘆して」 | ② { () 「面白い」
() 「楽しんで」 |
| ③ { () 「驚くべき」
() 「驚いて」 | ④ { () 「退屈な」
() 「退屈して」 |
| ⑤ { () 「混乱させる」
() 「混乱して」 | ⑥ { () 「期待はずれの」
() 「失望して」 |
| ⑦ { () 「刺激的な」
() 「興奮して・わくわくして」 | ⑧ { () 「恐ろしい」
() 「おびえて」 |
| ⑨ { () 「楽しい」
() 「喜んで・気に入って」 | ⑩ { () 「満足のいく」
() 「満足して」 etc |

②「人」を主語にできない形容詞

< easyタイプ >

- ①()「危険な」/②()「とてもゆかいな」
③()「難しい」/④()「簡単な」/⑤()「難しい」
⑥()「不可能な」/⑦()「興味深い」
⑧()「苦痛な」/⑨()「楽しい」

[1] 上記の形容詞は、()の形で用いられる!
→ ()の形の構文に書き換えることは不可!

(例) ○ It is easy for you to solve that problem. 「その問題を解くのは
× You are easy to ^Asolve that problem. ^B 君には易しい」

[2] このタイプの形容詞は、to V BのBをSにして()
の形の構文【タフ構文】を作ることができる!

(例) That problem is easy for you to solve. 「その問題は君には
B A 簡単に解ける」

[3] このタイプの形容詞は名詞の前においてその名詞を()する用法も可

(例) That is an easy problem for you to solve. 「それは君が解くには
簡単な問題だ」

< convenientタイプ >

- ①()「便利な」/②()「不便な」

[1] この2語は easyタイプに属するので用法は easyタイプと同じ。←タフ構文は不可

(例) It's not convenient for us to send him. 「彼に行ってもらうのは
× We are not convenient to send him. 私たちには都合が悪い」

[2] convenientは「」を主語にした文を作る。←この場合も⊙S ×

(例) When is it convenient for/to you? 「都合がいいのはいつですか」

< possibleタイプ >

- ①()「重要な」/②()「必要な」/③()「可能な」

[1] easyタイプの形容詞と同じ語法だが、[2]と[3]の構文は不可!

(例) It's possible for me to read the book in a day. 「私は1日でその本を読む」

<英語語法マスター⑰> 形容詞の語法③

1 意味が混同しやすい形容詞

①	{ () 「よく似て」 ← () のみにしか使えない (x) alike twins () 「ありそう」 cf. () 「	
②	{ () 「生きて(いる)」 ← () のみにしか使えない (x) alive animals () 「生き生きとした」「活発な」	
③	{ () 「思いやりのある」 () 「かなりの」	④ { () 「子どもらしい」 () 「子どもっぽい」
⑤	{ () 「経済の」 ← 節約的な () 「経済的な」	⑥ { () 「お気に入りの」 () 「好都合の」
⑦	{ () 「忘れられやすい」 () 「(人が)忘れっぽい」	⑧ { () 「健康な」 () 「健康に良い」
⑨	{ () 「歴史上有名な」 () 「歴史の」	⑩ { () 「産業の」 () 「勤勉な」
⑪	{ () 「評価できないほど貴重な」 () 「価値のある」 () 「大変貴重な・値が付けられない」	{ 「価値のない」は () = worthless
⑫	{ () 「想像できる」 () 「想像上の」 () 「想像力に富んだ」	⑬ { () 「読み書きのできる」 () 「文字通りの」 () 「文学の」
⑭	{ () 「男らしい」 () 「(女性が)男っぽい」	⑮ { () 「(人が)後悔して」 () 「(事が)残念で」
⑯	{ () 「立派な」 () 「それぞれの」 () 「礼儀正しい」	⑰ { () 「成功した」 () 「連続の」 () 「次の」
⑱	{ () 「敏感な」 () 「分別のある」	⑲ { () 「社会の/社交界の」 () 「社交的な」
⑳	() 「眠たい」 / () 「眠って」 ← () のみにしか使えない	

② It is ~ of 人 to V の構文

< It is + 形容詞 + of + 人 to V > の形で「」という意味
を表す。このパターンに使われる形容詞は以下の語!

- | | | |
|-------------|----------------|-----------------|
| ① () 「大胆な」 | / ② () 「不注意な」 | / ③ () 「利口な」 |
| ④ () 「残酷な」 | / ⑤ () 「愚かだ」 | / ⑥ () 「親切な」 |
| ⑦ () 「正直な」 | / ⑧ () 「親切な」 | / ⑨ () 「親切な」 |
| ⑩ () 「無礼な」 | / ⑪ () 「利己的な」 | / ⑫ () 「愚かだ」 |
| ⑬ () 「邪悪な」 | / ⑭ () 「賢明な」 | / ⑮ () 「まちがいた」 |

[1] 上記の形容詞は、「①に対する判断」を示す。() を主語にした文も可!

(例) It was foolish of you to make such a mistake.

→ You were foolish to make such a mistake.

「あんな誤りをするなんて君はばかだった」

⑤ この構文は () の形に書き換えは不可!

[2] この構文の () では () を省略することができる。

(例) How foolish (it was) of you to make such a mistake!

「あんな誤りをするなんて君はなんというばかだったのだろう」

[3] 上記の形容詞の中で () の形でも意味の通じるものは、

"It is ~ for 人 to V" の構文でも用いられる。

(例) It would be foolish for us to make such a mistake.

「あんな誤りをするなんてばからしいことだ」

⑥ 両方の型でよく使われるものは foolish, rude, stupid, wicked, wise など

③ 「できる・できない」の形容詞

① () → () をとり、() を主語にとる。() の形をとることはない。反意語は () 受身も NG!

(例) She was able to do the job. 「彼女にはその仕事ができる」

② () → () をとり、() が文の主語になる。

↔ () () の形をとることはない。

(例) She was capable of doing the job.

③ () → () は主語にならない。← 第16構参照

<英語語法マスター⑧> 形容詞の語法④

① 補語専用の形容詞

形容詞には補語になる用法 [= 用法] と名詞を(前から)修飾する用法 [= 用法] の2つがある。

→ どちらか一方の用法しかないものや、用法によって意味が違ふものがある!

<補語[叙述用法]でしか用いない形容詞>

- ① () 「恐れて」/ ② () 「よく似て」/ ③ () 「生きて」
 ④ () 「ひとりで・孤独な」/ ⑤ () 「恥じて」/
 ⑥ () 「眠って」/ ⑦ () 「目が覚めて」/ ⑧ () 「気付いて」
 ⑨ () 「満足して」/ ⑩ () + to V 「責任があって」
 ⑪ () + to A 「/ ⑫ () + to V 「
 ⑬ () 「健康な・好都合な」/ ⑭ () + ⑮ (Ving) 「の価値がある」
 など

[1] 上記の形容詞は叙述用法のみに用いられる!

(例) (O) The twins are exactly alike. 「その双子はうり二つだ」

(X) They are exactly alike twins.

⑮ well は ⑮ の口語では 「」の意味で限定用法に用いることがある。

[2] これらの形容詞は () に置いてその名詞を修飾することがある。

→ 「」の省略と考える!

(例) I am now the happiest man (who is) alive.

「私は今この世で一番幸せだ」

② 限定用法のみの形容詞

<名詞修飾[限定用法]でしか用いない形容詞>

- ① () 「年上の」/ ② () 「お気に入りの」/ ③ () 「前者の」
 ④ () 「後者の」/ ⑤ () 「生きている」/ ⑥ () 「単独の/ただ1人の」
 ⑦ () 「主な」/ ⑧ () 「ほんの」/ ⑨ () 「近くの」
 ⑩ () 「唯一の」/ ⑪ () 「以前の」/ ⑫ () 「統計の」
 ⑬ () 「上の」(↔ lower)/ ⑭ () 「全くの」/ ⑮ () 「まさにその」
 など

(例) This is the very book I need now. 「これが今私が必要なまさにその本だ」

3 叙述用法と限定用法で意味が変わる形容詞

形容詞	叙述用法	限定用法
① ()	「～することができる」 ↑ () で	「 」
② ()	「 」	「 」
③ ()	「 」	「 」
④ ()	「 」	「 」
⑤ ()	「 」	「 」
⑥ ()	「 」	「 」

(例) You'll be late for the meeting. 「会合に遅れるよ」

※ be late for A: 「 」

He arrived in the late afternoon. 「彼は午後遅くに到着した」

⑥ 1. late は () で限定用法の形容詞として、 「 」 の意味を表す

2. アメリカでは「病気の」の意味では両用法ともに () を用いることが多く、イギリスでは sick は叙述用法では 「 」 の意味に用いる。

3. () は「右の」の意味では () 用法のみに用いる!

4 注意すべき形容詞の名詞のコロケーション

① () : 「 」 ↔ ()

You have the wrong number. 「番号が間違っています」

② () → () : 「 」

③ (/) : 「 」

The traffic is heavy on Sunday. 「日曜日は交通が激しい」

<英語語法マスター①⑨> 形容詞の語法⑤

① It is ~ that節と for A to V

It is ㊦ that ~ と It is ㊦ for A to V はどちらも同じ様に扱われるが、形容詞によってはどちらかの形をとるものと、両方の形をとるものとがある!

< that節を使うタイプ >

- ① () 「明らかな」/② () 「確かな」/③ () 「明らかな」
④ () 「ありそうな」/⑤ () 「明白な」/⑥ () 「明らかな」
⑦ () 「ありそうな」/⑧ () 「本当の」

[1] 「明らかな」「確かな」など「誰かが~した」という () について「本当」とか言っている!

(例) ○ It is true that he is angry with her. 「彼が彼女に腹を

× It is true for him to be angry with her. 立てているのは本当だ」

[2] () がなければ It is true to say ~. などの形は可能!

< for A to Vを使うタイプ >

- ① () 「危険な」/② () 「難しい」/③ () 「易しい」
④ () 「難しい」/⑤ () 「不可能な」/⑥ () 「可能な」

[1] 「易しい」「難しい」など「誰かが何かをする」ことに対して言っているので、実際にするのはわからない。() の話! → to V を使う!

(例) ○ It is impossible for him to master it. 「彼がそれをマスターするのは

△ It is impossible that he masters it. 不可能だ」

[2] possible, impossible が「 . 」の意味のときは () !

(例) It is impossible that he ate it. 「彼がそれを食べたということはありません」

< 両方の形を使うタイプ >

- ① () / () 「驚くべき」/② () 「奇妙な」
③ () 「望ましい」※/④ () 「重要な」※
⑤ () 「当然の」/⑥ () 「必要な」※ などその他多数

[1] 「当然・驚き・遺憾」などの意を表す場合には、It is ㊦ that ~ の構文の that節中の動詞に () をつける。← ｲｸﾞﾘｽ英語 ※印は㊦では 仮定法現在 (原形)

(例) It is natural for parents to love their children. 「親が子を愛するのは当然」

②「人」を主語にする形容詞

< sorryタイプ >

- ①()「怒った」/②()「恥じて」/③()「喜んで」
 ④()「失望した」/⑤()「興奮した」
 ⑥()「喜んで」/⑦()「楽しい」/⑧()「喜んで」
 ⑨()「誇って」/⑩()「気の毒だ」/⑪()「驚いた」

[1] 上記の形容詞は④を主語にしてその④の()を表すので、It is ④ for A to V・It is ④ that~の構文には用いない。

(例) I am glad to meet you. 「私はあなたに会えて嬉しい」

× It is glad for me to meet you.

[2] ④を主語にした文では()の両方をとることができる。このto・that以下は両方とも()を示す。

< anxiousタイプ >

- ①()「切望している」/②()「切望している」
 ③()「熱望している」/④()「喜んでする」= ()

[1] 上記の形容詞は④を主語にして、その④の主体的意志・欲求を表す。

Itや不定詞を主語にした構文には用いられない!

(例) He is anxious to see her. 「彼は彼女に会いたがっている」

× It is anxious for him to see her.

[2] ()または()をとり、通例()を用いる。ただし「喜んでする」の意味では()の形で表す。

③ anxiousやeagerは()の形でも用いる。

[3] 「未来」のことにに関する表現なので、完了形不定詞やthat節内に過去の文は来ない!

(例) I am eager for you to do the work. 「私は君がその仕事をするよう」

× I am eager for you to have done the work. 切望する

③ その他の注意すべき形容詞

- ①()「
 ②()「
 ③()「
 ④()「
 ⑤()「
 ⑥()「
 ⑦()「
 ⑧()「
 ⑨()「
 ⑩()「
 ⑪()「
 ⑫()「
 ⑬()「
 ⑭()「
 ⑮()「
 ⑯()「
 ⑰()「
 ⑱()「
 ⑲()「
 ⑳()「
 ㉑()「
 ㉒()「
 ㉓()「
 ㉔()「
 ㉕()「
 ㉖()「
 ㉗()「
 ㉘()「
 ㉙()「
 ㉚()「
 ㉛()「
 ㉜()「
 ㉝()「
 ㉞()「
 ㉟()「
 ㊱()「
 ㊲()「
 ㊳()「
 ㊴()「
 ㊵()「
 ㊶()「
 ㊷()「
 ㊸()「
 ㊹()「
 ㊺()「
 ㊻()「
 ㊼()「
 ㊽()「
 ㊾()「
 ㊿()「

＜英語語法マスター②＞ 副詞の語法①

① 肯定・否定・疑問文のいずれに用いるかで注意が必要な副詞

① already の用法

- ・肯定文で「 」という完了の意味を表す。

(例) She has already finished the work. 「彼女はもう仕事を終わりました。」

- ・否定文・疑問文で「 」という意外・驚きの意味を表す。

(例) He hasn't come already, has he? 「まさかもう彼が来たのではないでしょうね」
→ 否定文の場合、()がつくことも多い。

② yet の用法 ← yet の位置は ()

- ・ 否定文で「」の意味を表す。

(例) She is not home yet. 「彼女はまだ帰宅していない」

= She is not **yet** home. ← 文語では () に置かれる。

- ・ 疑問文で「」の意味を表す。

③ stillの用法

- ・肯定文・疑問文で「**→**」という**継続**の意味を表す。

- ・ 否定文で「still」といふ否定の状態の継続を強調する意味を表す。stillの位置は()。

(例) You **still** haven't answered my question. 「君は**まだ**私の質問に答えていない」

- ・ () の still は接続詞的に用いられ、「　　」の意味を表す。

(例) We were poor. Still, we were happy. 私たちは貧しかった。それでも幸せだった。

④ ever・onceの用法

- ・ ever が「
肯定文では「
」の意味を表すのは 否定・疑問 および 条件文 の場合で、
」の意味は once で表す。

(例) Have you **ever** been to London? 「ロンドンに(かつて)行ったことがありますか」

I have seen it once. 「私は1度それを見たことがある。」

→ once が動詞の前、文頭にすると「私はかつてそれを見たことがある」となる

I once saw it.

⑤ too・eitherの用法

- ・ too 「は肯定文に用い、否定文に続いて」
 には either を用いる。 」という場合

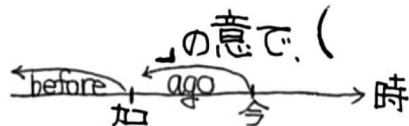
② 用いる文の時制に注意が必要な副詞

① agoの用法: 「～前に」

- agoは「過去」の意で、期間を表す語句を伴い、()とともに用いられる。
The house was built two years ago. 「その家は2年前に建てられた」

② beforeの用法: 「前に」

- beforeは「過去」の意で、()とともに用いられることが多い。



- (例) I told her that I had seen him two weeks before.
「2週間前に彼に会ったと私は彼女に言った」

- 「過去」の意で () 用いる用法もあり、この場合は ()・() () などと用いる。← agoは単独で用いない!

- (例) I have seen him somewhere before. 「以前どこかで彼に会ったことがある」

③ sinceの用法: 「それ以来」

- sinceは「過去」の意で () で、もしくは ever sinceの形をとり、() とともに用いられる。

- (例) We haven't seen her since. 「それ以来彼女には会っていない」

④ 「最近」の使い分け

- () [= ()] → () とともに用いる
- ()・() → ()・() とともに用いる

- ※ lately は通例 ()、recently は「最近ずっと」の意では ()、
「この間」の意では () とともに用いられる。

- (例) Many people nowadays travel to Japan. 「このごろ日本へ旅行する人が多い」
They got married only recently. 「彼らはついこの間結婚したばかりだ」

⑤ 「今」系の使い分け

- now 「今」は () に、just 「今しがた」は () と () 形とともに用いるが、just now 「たった今」は () とともに用いる!

- (例) I have just received his letter. 「ちょうど彼の手紙を受け取ったばかり」
She left the office just now. 「彼女はたった今会社を出たところだ」

- ⑥ just now は状態動詞の () と用いて「現在」の意を表す。

<英語語法マスター②> 副詞の語法②

① 後ろの語順に注意すべき副詞

☆ ()・()・()・()の後ろは()

(例) ○ It is too good a story to be true. 「それは本当にしては話があますぎる」
 X It is a too good story to be true.

㊦ "so + 形容詞"の次の名詞が**複数**のときは()を用いる!

○ I have never seen such good men. 「私はこんな良い人たちを見たことがない」
 X I have never seen so good men.

so・as・how・tooの後ろに続く語

so	} 形 + a/an + 名	() / ()
as		()
how		()!
too		()

② 準否定の副詞

① () [] + V: 「
 」 ← () を表す!

(例) It was so dark that we could hardly see.
 「暗かったので、ほとんど見えなかった」

② () [] + V: 「
 = ()」 ← () を表す!

(例) I rarely go to the movies. 「私はめったに映画に行かない」

※ 4つの準否定語は (/) などと同時に使えない!

強さの順番

few + 複数名詞 ㊦ < () < no + 名 [not ~ any 名]
 little + 単数名詞 ㊧ [not a 名]
 「ほとんど～ない」 「全く～ない」

||
 () ← almostは否定の意味はない!

③ almostの用法

almostの後に続く頻出語

① (): 「 」

(例) Almost all (of) the students like English. 「学生のほとんどは」
 = () like English. ← やや少ない人数 英語が好きな人
 = () like English.

② (): 「 」

(例) Almost everybody was invited. 「ほとんど全員が招待された」

③ (): 「 」

(例) There is almost no difference. 「ほとんど違いはない」
 = There is () () difference.

④ (): 「 」

(例) I almost always play baseball after school.
 「僕は放課後にほとんどいつも野球をする」

⑤ () = (): 「 」

← almostの方が強い

(例) I almost missed my train. 「危うく列車に乗り遅れるところだった」

⑥ (): 「 」

(例) Tom can speak French almost as well as me.
 「トムは私とほぼ同じくらいフランス語を話せる」

※ almostは副詞なので、()は×!!

④ 名詞とまぎらわしい副詞

go 「行く」
 come 「来る」
 get 「到着する」など

+

① () 「外国に」 / ② () 「町に」
 ③ () 「下の階に」 / ④ () 「家に」
 ⑤ () 「海外へ」 / ⑥ () 「上の階へ」

→ これらは副詞なので前置詞のtoなどは不要!

① 1. go to his homeのように、単独ではなく () や () が付くと
 homeは名詞となり、toが必要となる!

2. 場所・時の副詞は名詞の後ろに置かれることがある。 on the way home

<英語語法マスター②②> 副詞の語法③

1 "ly"の有無で意味が変わる副詞

"ly"無し	"ly"有り
① () 「順調に」「偉大な」	① () 「非常に」「大いに」
② () 「一生懸命に」「難しい」	② () 「ほとんど～ない」
③ () 「(物理的に)高く」 → () を修飾	③ () 「(比喩的に)高く」「非常に」 → () ・ () を修飾
④ () 「ちょうど」	④ () 「公正に」
⑤ () 「遅く、遅い」	⑤ () 「最近」
⑥ () 「最も」「たいていの」	⑥ () 「たいてい」「大部分は」
⑦ () 「近くで、～の近くに」	⑦ () 「ほとんど」「危うく(～する)」
⑧ () 「かなり」(形の前で)	⑧ () 「きれいに」
⑨ () 「きっかり」	⑨ () 「鋭く」

(例) Birds are flying high in the sky. 「鳥が空高く飛んでいる」
 She is highly respected. 「彼女はとても尊敬されている」

2 副詞 otherwise の3つの用法

① 「 ← () でよく用いられる I left home earlier; otherwise I would have missed the train. 「私は早めに家を出た。そうでなかったらその電車に乗り遅れていただろう」
② 「 You can arrive much earlier by taxi than otherwise. 「タクシーで行けば他の方法よりもずっと早く着きます」
③ 「 ※ 形容詞用法 「 ← () で使われる Your essay is a little long, but otherwise it is perfect. 「君のエッセイは少し長いが、それ以外は申し分ない」

3 副詞の much の注意すべき用法

① (): 「 」 ← 語順に注意!

(O) much too expensive (X) too much expensive
「あまりにも値段が高すぎる」

※ 「too much money」の much は () なので O

② (): 「
The results are much the same. 「結果はほぼ同じだ」

③ ()・(): 「
It is much better than the others. 「それは他のものよりずっとよい」
It is much the best way. 「それはずばぬけて一番良い方法だ」

④ (): 「
Much to my joy, I have passed the examination.
「非常にうれしいことには、私は試験に合格した」

★ much + 普通の (形・副) は X → () + 普通の (形・副) は O

4 間違えやすい first 系

① (): 「
At first, I was nervous, but I became relaxed later.
「最初は緊張したが、後に落ち着いた」

② (): 「
I ate Japanese food for the first time. 「初めて日本料理を食べた」

③ (): 「
= () / ()
Firstly, I will answer your questions. 「まず初めに、あなたの質問に答えます」

<英語語法マスター②③> 副詞の語法④

① 文と文の意味をつなぐ副詞(句)

- ① 逆接・対立: 「しかし」
- ↖ 文頭は× → () で用いる!
- () 「しかしながら」 / () 「しかしながら」 ← although は ㊦ のみ
 - () / () 「それにもかかわらず」 ← () も
 - () / () 「それでもやはり」
 - () 「それどころか」 ※ to the contrary
- ㊦ () 「一方」 / () 「

- ② 追加: 「さらに」
- () 「その上、さらに」 ← () も!
 - = () / () / ()
 - () / () / () 「

- ③ 説明・例示: 「すなわち」「例えば」
- () 「言い換えると」 / () 「つまり」
 - () 「すなわち」 / () 「同様に」
 - () / () 「例えば」

- ④ 因果関係: 「それゆえに」
- () / () / () 「それゆえに」
 - () / () 「結果として」

- ⑤ 選択: 「さもないと」「その代わり」
- () 「さもないと」 / () 「その代わりに、それよりも」
- ↖ () 「Aではなく」

- ⑥ 結論: 「要するに」
- () / () / () など

上記の語(句)は 副詞(句) なので 文と文をつなぐわけではない!

(例) SV... but SV'~. / Although SV'~, SV... / SV... although SV'~.

↖ カンマがなければ But と同じ!
However (,) SV... / S, however, V... / SV... (,) however ↗ 違いに注意!

→ 訳は全部 「」 となり、どれも同じ!

② 文全体を修飾する副詞

① (): 「残念ながら / 不運にも」

Unfortunately, he refused to come. 「残念ながら、彼は来るのを拒んだ」
= It is unfortunate that he refused to come.

② () 「伝えられるところによると」

Reportedly, he is not dead. 「報じられているところでは彼はまだ生きている」

③ () 「おそらく」

Supposedly, he actually died of a cancer. 「おそらく彼は実際は
ガンで亡くなっただろう」

③ その他の注意すべき副詞

① (): 「 」 ← 第22講参照

at six o'clock sharp = just at six o'clock 「きっかり6時に」

② (): 「 」 = ()

students and adults alike = both students and adults 「学生と大人両方」

③ (): 「 」 ← V = () 系

She badly wanted to be chosen for the team.

「彼女はどうしてもそのチームに選ばれたかった」

④ () + a (形) (名): 「 」 quite a kind boy 「かなり親切な少年」

⑤ () + 時・場所の副詞句・前置詞句: 「 」

right in front of the hotel 「ホテルのちょうど前に」

⑥ () asleep (形): 「 」 ※ sound sleep (名)
「ぐっすりとした眠り」

⑦ (): 「 」 ← () 「 」

He little knows the problem. 「彼はその問題に全く気付いていない」

I slept very little last night. 「昨夜はほとんど眠れなかった」